



## 2023年1月度全国法定伝染病情報

天津市疾病预防控制中心 www.cdctj.com.cn 2023-02-27

15:11 来源: 国家疾控局

2023年1月(2023年1月01日00:00~1月31日24:00)内の、全国(台湾香港マカオは含まず、以下同)の法定伝染病例は249,324例(宮本注: 前月は278,907例; 29,583人減)、死亡者数は2,158例(前月は2,384例; 226人減に転)であった。

うち、

A(甲)類伝染病では、発症・死亡例報告はなし。

B(乙)類伝染病はSARS、ポリオ、ヒト感染高病原性鳥インフルエンザ、ジフテリア、住血吸虫症とH7N9型鳥インフルエンザで発症・死亡例なし以外、残20種(新型コロナの欄がなぜか2022年12月分から削除されているため20種とされています)については、発症184,750例(前月は148,573例; 36,177人増に転)、死亡2,158例(前月は2,384例; 226人減に転)が報告されている。報告されている発症データの病種ワースト5は、ウイルス性肝炎、肺結核、梅毒、淋病およびブルセラ症(エイズがランク外にブルセラ症がランクイン)で、B類伝染病報告総数の97%を占めていた。

\* 衛生当局が乙類乙管(乙類の病気は乙類として管理する)に変更するといいつながらコロナの発症者・死者がカウントされていないため、月報上の発症・死亡者数は不正確なものです

ヒト感染高病原性鳥インフルエンザ(H5N1)については、広西チワン族自治区の忻州市在住者の38歳女性が、『9月22日』に発症、10月18日に死亡していましたが、当局は発症のみを公開、死者については発表していません。このまま死者がでなかったことにしたいのでしょうか。

昨年から増加していた『ヒト感染高病原性鳥インフルエンザH5N6』はいわゆるヒト感染高病原性鳥インフルエンザ(H5N1のみにしている筈)には組み入れられていないはずなのですが、状況によっては衛健委がこれを新たな項目にするかもしれません。病名そのものに問題がある(現状ではいわゆる『新型インフルエンザ』というのと同様で不便ですね)と思うのですが、、リスト上ではこの『ヒト感染高病原性鳥インフルエンザ』はゼロとなっている中、今後の区分に関しては5月、6月に1例、7月はゼロでしたが、10月15日に広西自治区南寧市で1例が増え、発表ベースで2022年の第17人目となります。つまり9か月目にして17人となりました。秋~冬にどれだけ見つかるかももう少し注視必要かと思えます。

### <<COVID-19>>

『乙類乙管』、即、乙類感染症を乙類として管理するとした筈の衛生当局ですが、本月報でも『新型コロナ』の欄そのものが削除されていることに注意ください。中国にはコロナが存在していないとでもいいたいのでしょうか。

中国は12月27日に、「今後は月報でしか発表しない」としていたが、この月報にも反映していない。時がたてば皆が忘れるという考えのもと、コロナの患者数・死者数を隠ぺいするつもりなのか？

2023年1月1日まで国家衛健委により発表されていた『12月1日~31日の公式発表データ』を合算すると、発症者数111,788人、死者数17人となるはずですが、衛生当局が1月14日に「12月8日~1月12日の間(なんと半端な統計の取り方ですが公式発表はこれしかないの仕方ありません)」に59,938人が『病院で(つまり、それ以外の自宅や介護施設などで死亡した人は含まれてはいません)』で亡くなっていたと発表しており、つじつま合わせに戸惑っているのか、これらの数字は全く月報に反映されてない。何故でしょう？ 更に、12月1日から7日までのデータが何もないとでもいうのか、我々の常識では判断できませんね)

同期、C(丙)類伝染病では、発症数は64,574例(前月は130,334例で65,760人減)、死亡は0例(前月も0例)であった。発症データの3位までの病種は、その他感染性下痢、インフルエンザと手足口病であり、C(丙)類伝染病報告総数の94%を占めていた。

### (H7N9 鳥インフルエンザ患者と死亡者について):

1. 国家衛生計生委発表の2017年度月報上では、12か月間累計発症者数は、646人(死者数は269人)となりましたが、年度報告では発症589人、死亡259人と、それぞれに57人、10人の発症者・死亡者が消し去られていました。

(こういう場合、WHO への通報はどうするのでしょうか。恥ずかしいけどこんなに間違いがありましたと訂正を依頼できるのでしょうか。)

2. 不思議なことに、2017 年 10 月以後は、散発的に患者が出ていたが、第 6 の波と呼べるものがまだ表れていません。2018 年 2 月以後は発症ゼロ、3 月に一名死亡以後ゼロ行進。2019 年は 4 月に内モンゴルと甘肅省境で患者 1 名が出たが、それ以外はゼロ行進が続いている。**2023 年 1 月も発症・死亡ともに『ゼロ』。**
3. 4 月 5 日に内モンゴル自治区(内モンゴル自治区アルシャー盟エジン旗達来呼布(ダライコボ)鎮)で 82 歳男性感染者が見つかった(13 カ月ぶり!)ので、その数字が反映されています(誤診ではなかったようです!)。2018 年 2 月以後の患者発生が報じられていないため、4 月の死亡者も同じ人だと推量可能です。
4. 2018 年に入ってからは、この 1 月月報上の 1 名(新疆で発見、香港が発表)。そして、2 月は 1 人発症 1 人死亡と発表。2 月 11 日に中山市での患者発生が報じられている)しているのですが 3 月の死亡者 1 人というのがこの患者の死亡を表しているとするれば、1~5 月までの累計で 2 名が発症、2 名が死亡のままですが、5 月に、『広東省本年初の患者が回復、まもなく退院(<https://wp.me/p66EIr-2RJ>)』という報道があったため、これが中山市の患者であることは明白、つまり、2 名の本年死亡者中の「1 名」は、確実に 2017 年の患者であることがわかりました。
5. 中国政府の活動の一つに、動物のサンプル調査で陽性反応が出た場合に、活禽市場を暫時閉鎖するというものがあり、これが『活禽への直接暴露機会』を減らしているのかもしれませんが。また、浙江省杭州市では、すでに市内での活禽交易市場は永久閉鎖されていますが、本当にこれだけで、第五波の数百人が第六波を起こすことなくほぼゼロになるのか、少し『楽観し過ぎ』かもしれません。
6. 現時点で未陥落の省は、青海省、寧夏回族自治区と黒竜江省の 3 省のみですが、黒竜江省では鳥間の集団発生が見られていますので、次の冬~春季に患者が出てくるという考え方を排除できません。
7. 浙江省、江蘇省、湖南、湖北省、北京市に続き、安徽省も患者のタイムリーな発表を意図的に隠し続けている様ですが、四川省アバ自治州若爾蓋などは刻々と変わる発生の状況をタイムリーに伝えており、これにより『デマ』に惑わされないようにとの工夫をしています。8 月になって湖南省 CDC は単発患者 1 名を発表していますので、隠蔽体質の省から外せるかもしれません。もう少し様子見が必要。
8. 2017 年 1 月からの FluTrackers との情報交換共同作業をする中で、1625 号患者(06 月 15 日発表)まで追いかけることができました(7 月に中側から FAO に発表された 12 人と、12 月 19 日に FAO が発表した累計患者数“1621 人”との差 20 人、それに 2 月 28 日の FAO “発表 1625”人との差についてはいまだに詳細を確認することができずにいます)。WHO への報告主体である衛計委と FAO への報告主体農業部の間でも同国内なのに整合性もなく、また、2017 年年報を発表した衛計委自体も患者数を突然 57 人減じている(死者数も 10 人減!)事実がありますが、衛計委が WHO に「この患者とこの患者は誤報でした」という通知もしていない??? FluTrackers によると、『必ずしもすべての数字が WHO に報告されていない恐れがある』とされています。実際、FluTrackers は、NHFPCC や省・市の HFPC や HFPB、それに香港 CHP の正式発表をもとに重複排除しており、中国政府当局の作為的な操作があるのかは別にして、乖離があります。中国当局から FAO への通報、これに基づく FAO の発表についても上で述べたように『謎』の部分が出てきています。これらの患者がどうなったのかは、衛生計生委が毎年行っている B 型肝炎患者数や梅毒患者数の操作と同じように『いなかったこと』にされるのかもしれませんが。患者が少なかったことから情報提供も僅か、それでも弊所から FluTrackers への情報提供数は、**2017 年 1 月以来 523 本**になりました(as of Mar. 01, 2023)。
9. 2014 年 1 月に浙江省 HFPC が発表した『確診患者は日日発表、死亡患者は翌月の月報にて発表。これが乙類伝染病としての管理だ』という内容の記事を弊研究所サイトにアップしています。『[2014-01-27 浙江省の H7N9 鳥フル患者死亡者数発表に関して](#)』をご参照ください。
10. また、家禽の養殖場(採卵用の養鶏場)での集団発生が、増えています。  
2017 年 3 月には湖南省永州市、5 月には河北邢台市、河南平頂山市、天津市で発生。6 月に入ってからは陝西省榆林市、内モンゴルフホト市、内モンゴボト(包頭)市、黒竜江省双鴨山市、8 月には安徽省滁州市鳥間、と 9 件が発生しています。
11. 2018 年に入り、3 月 5 日には陝西省銅川市王益区で発生、4 月 5 日には山西省臨汾市、18 日には寧夏回族自治区同心県での発生、5 月 9 日には寧夏回族自治区固原市でのアウトブレイクが農業農村部から発表されましたが、6 月 1 日には、遼寧省瀋陽市で発生(H7N9 に関する PPT に追記しています)。これで 2017 年は 9 件、2018 年は 5 件、合計 14 件目の集団発生となります。一人もヒト感染者が見つかっていない寧夏回族自治区における鳥間の集団発生が 2 件続けて出ていることが気がかりです。
12. 2019 年 3 月に、遼寧省錦州市で久しぶりの集団発生が報じられ、これで 2017 年から通算 15 件目の集団発生が出た形になりますが、どうも間隔があきすぎており、H7N9 については、本当に消えているのか、消し去られているのか、良く判らなくなってきました。
13. 2020 年に入ってからの家禽の集団発生はゼロです。
14. 鳥間での病原性が低病原性から高病原性に変化しているようです(上海復旦大学の研究成果が『ランセット』感染症』に発表されたようです)が、今後の動向に注目必要ですね。
15. 但し、『[2018-04-03 対家禽 H7N9 インフル強制ワクチンの接種実施 河南省](#)』で書かれているように、H7N9 ワクチンを家禽に強制接種されれば、(鳥肉を食用した人体への影響の有無は別にして)鳥類間でのアウトブレイク件数が減るのかもしれませんが。これもまた要ウォッチ事項だねと FluTrackers と話をしています。

(⇒See [20230227G 中国衛生部発表の全国法定伝染病発症死亡統計](#))

<https://www.cdctj.com.cn/system/2023/02/27/030103447.shtml>

